

## たちだより 第24号



## 新入職員紹介

9月より入職しました看護師の合田（ごうだ）です。以前は西大宮病院の外来で勤務していました。

訪問看護の仕事は初めてですが、利用者さんやご家族の「こんな風に日々の生活を過ごしたい」との思いを大切に、私自身日々色々なことを学びながらケアサービスの提供をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



4月に入職しました看護師の繁竹（しげたけ）です。以前、タッチに5年程勤めていましたが、他のステーションで経験を積んだ後、再入職しました。1人1人が必要としている看護を把握し、安定した在宅生活が継続できるようお手伝いしていきます。訪問した際は皆様の経験談（こんな物が美味しかったよ。昔はこんなことがあったよ等）を教えてください。訪問の時間が楽しい時となるように、訪問していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。





# 訪問看護を利用して

2016年夏、主人が55歳の時に旅先で脳梗塞を発症し右上下肢麻痺と失語症と高次脳機能障害という重い後遺症が残りました。主治医には命が助かったとしても今後はベッド上での生活になるだろうと言われました。

タッチさんに週3回訪問リハビリでお世話になり5年が過ぎました。お陰様で出来る事が増えました。現在は月1回の訪問看護も利用して、色々な相談に乗って頂き、又、的確なアドバイスもして下さり心から感謝しております。

特にコロナ禍で通所サービスが利用できなくなった時、シャワー浴の対応をして頂き有難うございました。

今後も現在の関わりを続けていきたいと思えます。タッチの皆さん、今後共宜しく願います。  
【S様の奥様】

89歳の母親が左肩を骨折して日常生活が出来なくなりました。左腕が上がらず着替えもできない状態でした。西大宮病院で「がっちり」と固定されて帰宅した母が、しょんぼりしているのを見て、4年前に亡くなった父親が、たくさんお世話になったタッチさんを思い出し、わらにもすがる思いで事務所向かいました。

父の介護の際にお世話になった懐かしい皆様が、明るい笑顔で「大丈夫ですよ！」と声をかけてくださり、これからの手続きの事やすぐに訪問看護をしてくださることを説明して頂きました。「どうしよう…」という不安が一気に晴れてとても安堵しました。

明るく元気な看護師さんが入浴介助をして下さり、優しく穏やかな理学療法士さんがリハビリをしてくれる時間を、母はとても楽しみにしています。安心してお任せできるので、家族も自分たちの仕事が出来ています。心から感謝しています。  
【A様の息子様】

歳を重ねるごとに足腰も弱くなり、動くこともままならなくなりました。そんな時、タッチさんにお世話になることになりました。健康チェックをしていただき、1人暮らしの私にとって耳を傾けて下さる大切な、ありがたい時を過ごせることになったのです。

2020年多臓器不全、2022年には敗血症、と生死をさまよう状態になった時、優しく心温まる言葉をかけて下さった事、今でも鮮明に覚えています。あふれる涙とともに感謝の気持ちでいっぱいでした。

毎日、看護と処置にいらして下さるようになり、はじめは痛い！とばかり言っていた私に、優しく時には励ましながら応えて下さいました。

これからの私の歩む道には、「タッチの看護師さんが側で見守っていて下さる」それが私の元気の源となっています。どうぞ今後ともよろしく願い申し上げます。

【T様】



TEL : 048-646-4701 FAX : 048-646-4700

Eメール : [touch@nishiohmiya-hp.or.jp](mailto:touch@nishiohmiya-hp.or.jp)